



ひめじ市民法律事務所

# 市民法律だより

## 暑中御見舞い申し上げます。

また、セミの初鳴きが始まりますね。  
素麺と水茄子と涼水と風鈴の季節です。



この半年は、日本も世界も新型コロナ対応で一変した半年でした。  
アジア地域は、幸い、欧米地域と比べると蔓延率・死亡率とも、桁違いに小さいわけですが、そのアジアの中では日本の被害は、格段に大きいようです。

予防法と治療法が見つかるまでの間は、と思い定めて、専門家の助言に従い、三密回避など、みんなで、一緒にできる対策を続けたいと思います。

ただ、せっかくの日本の夏。マスク、アクリル板、ビニール幕。こうした、「無粋」なものが、なにかもっと、美しいもの、暑苦しくないものにならないか。こうしたところに私たち日本人の細やかな技が欲しいと思ってしまう今日この頃です。

司法は、自由と正義のインフラ。仕事の手をすっかり緩めてしまった地域の裁判所のお尻を叩きながら、法律事務所はこの夏も、元気に職務に精励します。

皆さまのご健康と、各方面でのご活躍を祈念して、夏のご挨拶と致します。

2020年(令和2年)盛夏  
ひめじ市民法律事務所 所員一同

### 発行責任者

〒670-0952 姫路市南条10-4

ひめじ市民法律事務所

所長 弁護士 平田 元秀

弁護士 吉谷 健一

電話 079-282-0430

FAX 079-282-0433

<http://himejishimin.com/>

### 事務所営業時間

月～金 午前9時30分

～午後6時

土曜日 午前中 予約相談あり

### コンテンツ

暑中見舞い	1
弁護士の小話	2
弁護士のよもやま話	3
エッセイ	4
お花見	4
猫ちゃん日記	5
事務所員アンケート	5
行ってきたよこんなお店	6
編集後記&休みのお知らせ	6

## 新型コロナ禍と未来予想図

平田元秀



今号の小話は、もちろん「新型コロナ」問題を避けるわけにはいかない。2020年前半期は、まさに環球の人類社会がCOVID-19のパンデミックに対する対処に覆われた(ている)非常に珍しい、特筆すべき時期だからである。

私の問題意識は、こうだ。「コロナ禍2020」は、「この世界規模の不幸を共通体験として私たちの社会の『同時代』を形成する」「そのような意味で繋がる」「そのことによって何か良いことが起こる」、そういうイメージを持つことができるか、である。

日本の私たちは、「3.11」を忘れない。兵庫に住む私たちにとって、そのことは「1.17」と固く結びつく。そして、その二つを結びつけるとき、私たちは、「誰も一人にはしない」。そう思う。共助の熱い心が深いところから湧き上がってくるものを感じる。震災も津波も土砂災害も不条理の塊だが、私たちの社会の繋がりはバージョンを更新してきた。

こうした体験は、災害問題から温暖化(気候危機)問題へ、そしてSDGsの地球市民的活動へと広がり、未来へ繋がるプラスの面をもイメージさせる。

しかし、「新型コロナ」はどうだろう。三密回避、マスク、ステイホーム、ソーシャルディスタンス、不要不急、長距離移動・帰省・外出の自粛、行動変容、新生活習慣、入国拒否、感染者・濃厚接触者の隔離…。これらは、人が人と触れあい、明るく楽しく親密に接することを戒める、それ自体「非人間的」な警告に満ちている。

COVID-19は、接触感染と飛沫感染をする。それ自体は風邪と同様だが、風邪くらい感染力が強いともいえる。それでもって、致死率が異常に高い。本日(2020年6月14日)現在、フランスで19%、イタリアで15%、イギリスで14%、オランダで12%である。米国で6%、日本で5%である。潜伏期間が長く、発症しない人が多く、不顕性感染の人からも感染する。予防法(ワクチン)・治療法(抗ウイルス薬)がまだ研究途上である。

①感染力、②潜伏性、③致死率、④予防治療法の欠如の4点が恐ろしさの原因である。

COVID-19は、人に、自分が感染していることを知られないという技により、普段通りに人と親密に接するよう行動させることによって、自分を爆発的に増やす能力を持っている。人は文字通り支え合う生物であり、人と親密に接することを通常行動とする動物である。COVID-19はこの特性にとっても適応した「狡猾」なウイルスだ。

だから、今、専門家チームが政府を通じて高唱しているのは、もっぱら、このウイルスの「狡猾」な特徴に鑑みた、現在の取るべき科学的・合理的な戦術である。もちろん、そこには、将来の人のあるべき姿に関する徳目は、まったくもって含まれていない。人は、マスクをして、ビニール越しに、2メートルも離れた人と、あらたに、友情を培ったり愛を芽生えさせたりすることは、無理だ。「あつまれどうぶつ森」でバーチャルな友情・恋愛を培い、体外受精で子どもを作る人類の未来を口にすることはできるが、ディストピア以外の何物でもない。まっぴらごめん。どのような信仰の教えも、そうしたものを智慧として示唆していない。

人が人である以上、「三密回避」以下の非人間的な警告などは、一時の暫定的な性質のものだと断定できる。COVID-19の予防薬や治療薬が実用化されれば、躊躇なく、元に戻してよい。「パンデミックはこれからも必ず起きるから」といって、「三密回避」を続けようという訴えは、「将来必ず津波は来るから」というので、列島の東と南の全海岸線に高さ40mの防潮堤を造ろうという訴えと同じで、そのようなことにはならない(実用化後の新型コロナは、BCGと治療薬で対処している結核と同様のイメージでよい。)

そう見極めると、論点の方向性は明確となる。

各国政府と市民社会は、SDGsの取り組みと同様に互いに連携して、COVID-19の予防薬や治療薬の開発と実用化、PCR検査キット、抗体検査キットの低価格普及とこの病気の予防・治療に全力を挙げるべきである。企業間・政府間の開発競争はあるとしても、それらは秩序のあるものであるべきだ。

今回の新型コロナで、「同時代を形成する」ような「何か良いことが起こる」とすれば、三密回避それ自体によるものではないだろう(今それは大事なことであるが「共通体験」として人類史的に世代間共有されることはないと思われる。)

三密回避それ自体には、献身、情熱、連帯、祭典の要素が欠けるから、パンデミックは再び、忘れられるかもしれない。人類の基本は変わりようがない。

三密回避がもたらした新しいツールは、「オンラインでみんなが大量につながるようになったこと」である。コロナ後の世界は、オンライン行動・Web行動がバージョンアップするだろうとはいえる。それが新しい社会の変化と革新を生み出す可能性は十分ある。

私の予想コメントはこの位である。

# 「I・R・A・C・H・I」

吉谷 健一

とあるテレビ番組で、関西人は「イラチ（せっかち）」であるというテーマを取り扱ったコーナーを見かけました。

コロナウィルスの感染症拡大による自粛期間ということで、自宅で何気なくテレビをつけて見ていたのですが、その中でふと目にとまったのは、「関西人はスーパーの買い物のレジ並びにこだわる」という話でした。

私も時々スーパーに行く機会があるのですが、確かに「どのレジに並べば一番早く自分の番が回ってくるか」ということはとても気になります。

わずかな買い物経験の中から得た経験則として、どのレジに並ぶかは、

- 1 レジ打ちの店員さんをみる
- 2 並んでいる人の数をみる
- 3 並んでいる人のかごの商品量をみる

これらの総合判断により判断するというものです。

1は、店員のレジ打ちの早さをみるということです。あくまで個人の感想ですが、男性よりも女性の方がレジ打ちが早い傾向にあるように思えます。

2は、当然ながら並んでいる人が少ない列を選ぶのが基本です。もっとも、他の列を見渡してみても、他の列よりもその列に並んでいる人が極端に少ない場合には、その列を避ける理由があります（1人の買物量がとても多いなど）ことがありますので、そこはケースバイケースです。この点、主婦の方々は素早く的確に判断しているのだからと感ずることがしばしばです。

3は、かごの荷物が極端に多いまたは少ない商品量である場合に、補充的に考慮に入れます。

もっとも、列待ちの段階では予想できない事情も色々出てきます。

874円の代金を、全て小銭で19枚出し切ろうと財布の中を全力で探し始めるお客さんも、いないとは限りません。

そういえば、最近は、客がセルフで精算する方式のレジも普及してきていて、これを利用すると小銭やお釣りのやり取りが省けて、この点は、小銭を出そうとする側にとっても助かります。

さて、列に並ぶ以上、列待ちの時間が潰れることとなります。

その間、ぼんやり過ごしていても手持ち無沙汰なので、時間つぶしを考えます。

まずは、周りに並ぶ人たちの人間ウォッチをしてみます。

レジに並ぶといろいろな人がいます。

レジまで来ておいて「これ要らないから戻しておいて」と店員に手渡し人。

中には、「今日1,000円しか持ってきてないねん」などとのたまう強者もいますが、やめた方がいいと思います。

あるいは、自分が買った商品の代金額を概算して小銭を先に用意してみるのも、ちょっとした脳トレーニングみたいでいいでしょう。

時間の過ごし方は色々あります。

もっとも、ここまで執念を燃やして一秒一刻を争って早くレジ精算を済ませたとしても、店の駐車場を出たところで信号待ちの渋滞に捕まってしまうと、結論的に全く変わらないことになります。

そして、このようなどうしようもないことをあれこれ考えている時点で、私が相当重度の「イラチ」であるとの指摘は免れないのでした。







## 「私のスーパーヒロイン」

小学生の頃、大好きだったリンドグレーンの『長くつ下のピッピ』。

初版本は1945年に出版され今年で75周年、日本語版は1964年に岩波から出版、全世界100カ国以上で翻訳され、今も読み継がれている。

ピッピは9歳にして一人で「ごたごた荘」に暮らし、天真爛漫で想像力豊かで力持ち。ペランダでコーヒーを飲みたいと思えば、そこで飼っている馬をひよいと持ち上げ外の庭に出してしまう。

火事の家から子どもを救い出し、いじめっ子は次々と木の上に引っ掛ける。誰に対してもはっきりものを言い、強く優しい。

今にして思えば、何よりも憧れだったのは経済的にも自立していて、何物にも束縛されず自由だということ。

『ピッピ』の作者、アストリッド・リンドグレーンはスウェーデン出身。2018年はスウェーデンとの外交関係樹立150周年ということで、記念行事の一つとして、『長くつ下のピッピの世界展～リンドグレーンが描く北欧の暮らしと子どもたち～』が全国8か所を今年4月まで巡回していた。京都と神戸にも巡回していたので出かけてみた。

『ピッピ』だけでなく、『ロッタちゃん』、『やかまし村』シリーズなどの貴重な原画や、初めて国外に出展されたオリジナルタイプ原稿、リンドグレーンのメッセージなども紹介されていた。「ごたごた荘」の大型模型などもあって童心に返ってワクワクした。

実のところ、作者のリンドグレーンについては、あまり意識していなかったので、『ピッピ展』を

通して、彼女の人となりを知り、なぜ小さい頃あんなにピッピのことが好きだったのか、腑に落ちた気がした。

リンドグレーンは、「本を手にした子どもはひとり、魂の秘密の空間に、自分だけの絵を描きます。(中略)子どもたちの想像力が絵を描けなくなる日は、人類が貧しくなる日です。(中略)明日の世界がどんなふうになっているか、その大部分は、今まさに読むことを学んでいる人たちの想像力の大きさにかかっています。だからこそ、子どもたちには本が必要なのです。」と語っている。

また、子どもには信頼できる大人と安心して暮らせる場所が必要だという信念を持っていた。1978年ドイツ書店協会平和賞授賞式で「暴力は絶対だめ！」とスピーチし、その後スウェーデンでは、世界に先駆けて児童への体罰、精神的暴力が法的に禁止された。

常に子どもの権利を守り、権力に屈せず、正しいと思うことをユーモアを持って貫いたリンドグレーン。

もともとは自分の愛娘のために語った即興のお話から生まれた『長くつ下のピッピ』。

「私は、私の中に存在する子どもを楽しませるために物語を書いているのよ」と語っているように、子どもの頃やってみたかったこと、紙からはみ出して大きく絵を描いたり、台所の床に小麦粉をぶちまけてクッキーを作ったり、木の上でお茶したり、屋根の上で鬼ごっこしたり、そんなことをピッピは何事もなくやっていたのける。

世界一強い、けれどその力は困っている人を助けるためにしか使わない。そんなピッピは私にとって永遠の憧れ、永遠のスーパーヒロインだ。

(美)

### 事務所行事(お花見)

「春」の事務所行事である花見をご紹介します。今回は残念ながら雨降りの中、数年ぶりに場所を変えて龍野城へ行ってきました。

龍野城の小窓から見る桜。小窓が額縁のようで見えていました。

お昼は、すくね茶屋で幻のそうめん『三神(さんしん)』をいただきました。

とてもこしのある麺で美味しかったです。

来年は晴天の日に行けたらいいのにな。

(ひ)



## 猫ちゃん日記

昨年、動物管理センターから譲り受けた2頭の猫(むぎ&そら)が、我が家の子になってから5月31日で1年が経ちました。2人のことを書かせて頂ける機会を頂いたので、親バカ目線で書かせて頂きたいと思います。



むぎ(キジトラ♂)は元野良猫ですが、人懐こい性格で最初から誰にでもスリスリ・ゴロゴロ。体がとても大きくてご飯大好き。現在の体重は7.4キロ！抱っこは短時間しか出来ません。でも運動神経は抜群でお腹を左右に揺らしながら走り回り、どこにでも飛び上がり物を落としたり破ったり。和室の障子はビリビリにされてしまいました。現在、張り替えるかはまだ検討中…家族が出かける時はお見送り、帰って来た時はお出迎えを忘れない、とても優しい子です。



そら(スコティッシュフォールド♂)は元の飼い主から見捨てられたかわいそうな子です。純血なのでおそらくペットショップ出身だけあり、見た目がとても可愛い♡うちの家族は全員“ちょら♡”と呼んでいます。見た目と反して性格はクールで噛み癖があり、そのために元の飼い主から見捨てられたようです。ですが、この1年で噛み癖はか

なり落ち着いてきていて、お腹を見せ付けて甘えてくることもしばしば。しかし“密”を好まないようで、あまり触らずにソーシャルディスタンスを保って接しているとご機嫌です。

縁あって一緒に住むことになった2人。大人になってからの同居でしたが、意気投合したようで、ほぼ一緒に行動しています。そらが密を好まないの、くっつき合って眠るというようなことはないのですが、ほとんど同じ部屋で過ごし、いたずらも共同作業。窓の外の子を見る時も一緒に並んで…というような感じで仲良く暮らしています。私にはそらがむぎのことを頼りにしているように見え、私たち家族(人間)よりも、むぎのことが好きそうです。私が出来るとは、出来るだけ2人が幸せに暮らせるように、これからも大事に最期まで！可愛がることだと思っています。

もしも皆様の中で、犬や猫を家族に迎えたいと思っておられる方がおられたら、保護されている子を迎えるという選択肢を是非！考えて頂きたいと思います。



【川】

## 事務所員アンケート

～ステイホーム～

あなたのお家時間を教えてください

▶①庭の手入れ、②里山歩き、③アマゾンプライム鑑賞  
【平田】

▶新聞記事を切り抜きしようとして溜まっていた分をスクラップしました。  
廃品回収に出すことができスッキリです。  
【吉谷】

▶ほぼ毎日生配信されたツイキャス(夜は飲みキャス)。TERUの声と姿に何よりも励まされた!!  
あとネットでドラマの一气見。流星にハマる!!  
【美】

▶以前から気になっていた人気のパン屋さんから、お取り寄せをしてみました。  
行列に並ばなくても買えて、幸せ気分になりました。  
【M】

▶飼猫と遊び、一緒に昼寝…昼間にずっと誰かがいたので、猫はゆっくり寝ることが出来ず、寝不足だったかも知れません。  
【川】

▶撮りため録画番組の消化。これまで観る物が多すぎて倍速再生していたので、これで少しは通常再生出来るかな。  
【ひ】



# ～行ってきたよ こんなお店～



今回ご紹介するのは、イーグレ姫路すぐ近くの和菓子のお店「重次郎」です。店内は木の温もりが感じられる、洗練された雰囲気。

テイクアウトはもちろん、店内で特製ジェラート『白-HAKU-』や飲物(ほうじ茶かコーヒー)等がついた『生菓子セット』、夏季限定でかき氷などイートインもできます。

一番のお勧めは、おはぎ『粋-SUI-』。小さくてコロんと可愛らしいので、つつい買ひすぎてしまいます。つぶあん、きなこ、よもぎ、古代米といった定番のものから、カカオや桜、さつまいも、カボチャ、ほうじ茶など季節限定のものも。

同じく、餡をくるんだ小餅『恵-MEGUMI-』も、こしあん、玄米、よもぎ、きなこの定番に加え、栗あんや甘酒などの季節限定のものが楽しめます。

夏季限定のかき氷は、つぶあんともちもち食感の真ん丸おはぎがのって、特製の抹茶シロツ



プが濃厚で甘さ控えめ。また、ポン煎餅がついたジェラートはあっさりしていて、煎餅のサクサクした食感とミルクの自然な甘みがマッチしています。

有機肥料米や無農薬の大納言小豆など、土づくりから素材にこだわったものづくりをされていて、どれも重次郎ならではの素材を活かした自然な甘み、優しい味です。

日持ちのする野菜煎餅や甘納豆、かりんとう、おこしなどのお菓子(どれも美味しいです!!)の他にも、佐用町特産のひまわりオイルやお米、ピクルスなどの加工品も置いてあるので、近いうちに試してみたいです。

(美)



## 編集後記

新型コロナウイルス感染症発生から半年が経ちました。

本来なら、日本中が東京オリンピックの明るいニュースで持ちきりであったと思います。

現在、緊急事態宣言が解除されたとはいえ、未だ予断を許さない状況が続いています。第二波が懸念される中、収束はまだまだ遠いコロナウイルス。再度緊急事態宣言が発令され、ステイホームということにならないように、基本ではありますが、しっかり手洗いうがい。マスクを着用し飛沫感染のリスク軽減。小まめに部屋の換気、出来る対策を講じて過ごしていただきたいと思います。

(ひ)

## 〈事務所お休みのお知らせ〉

8月13日(木)～16日(日)

お盆休みのため、お休みとさせていただきます。